

子どもに夢を！地域に輝きを！
より充実した教育環境をめざして

豊中市教育委員会事務局
教育総務室 企画チーム

説明の流れ（概要）

- 庄内地域の小・中学校の現状と課題について
 - 児童・生徒数について（推移、将来推計）
 - 学校規模について（小規模課題）
 - 通学区域について（分割校、調整区域）
 - 教育課題について

- より充実した教育環境をめざして
 - 学校規模と通学区域に関する課題の解消に向けた基本方針

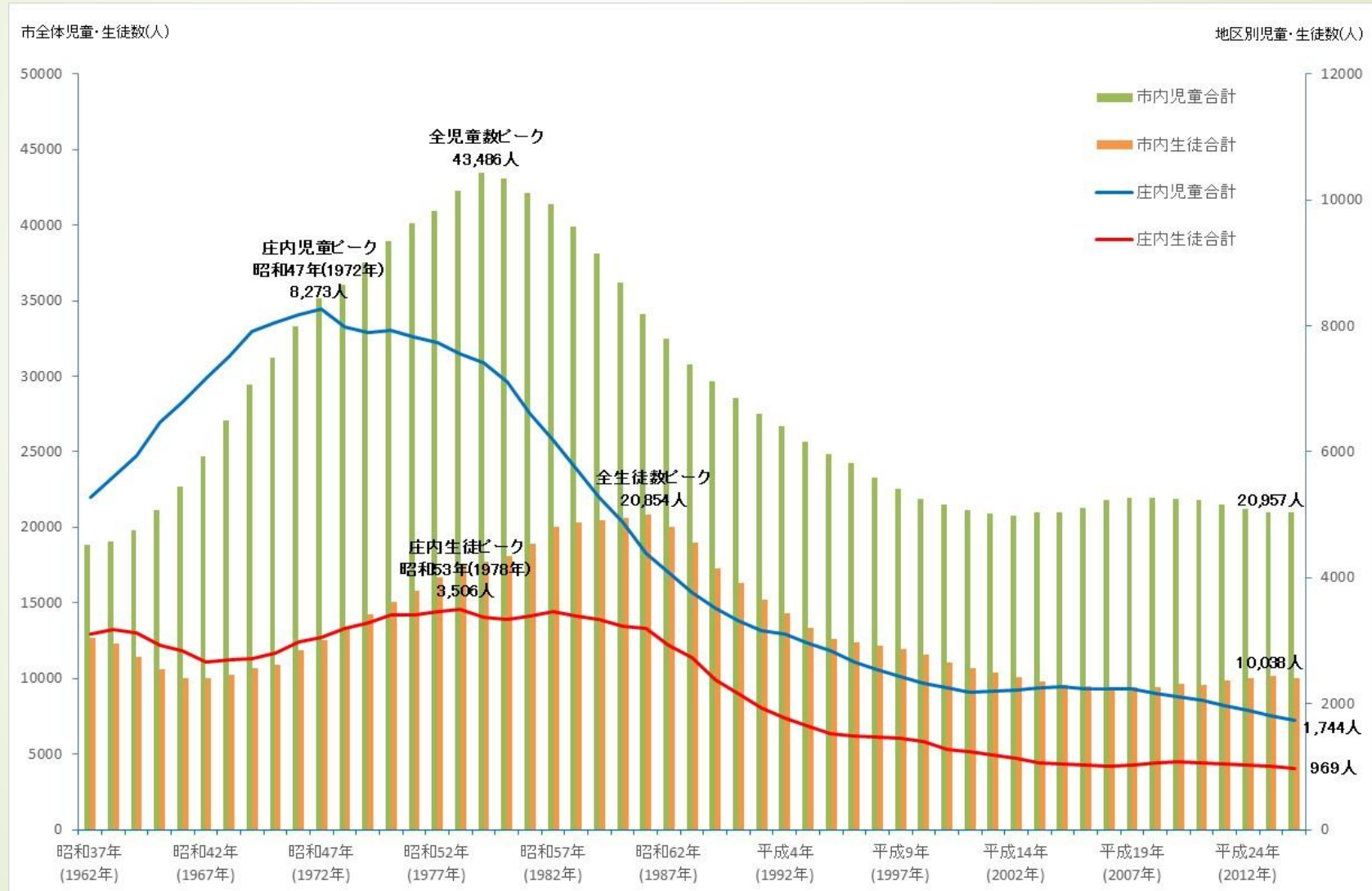
- 検討の進め方
 - 庄内地域の「魅力ある学校」づくりを一緒に考えましょう！

庄内地域における児童・生徒数の推移

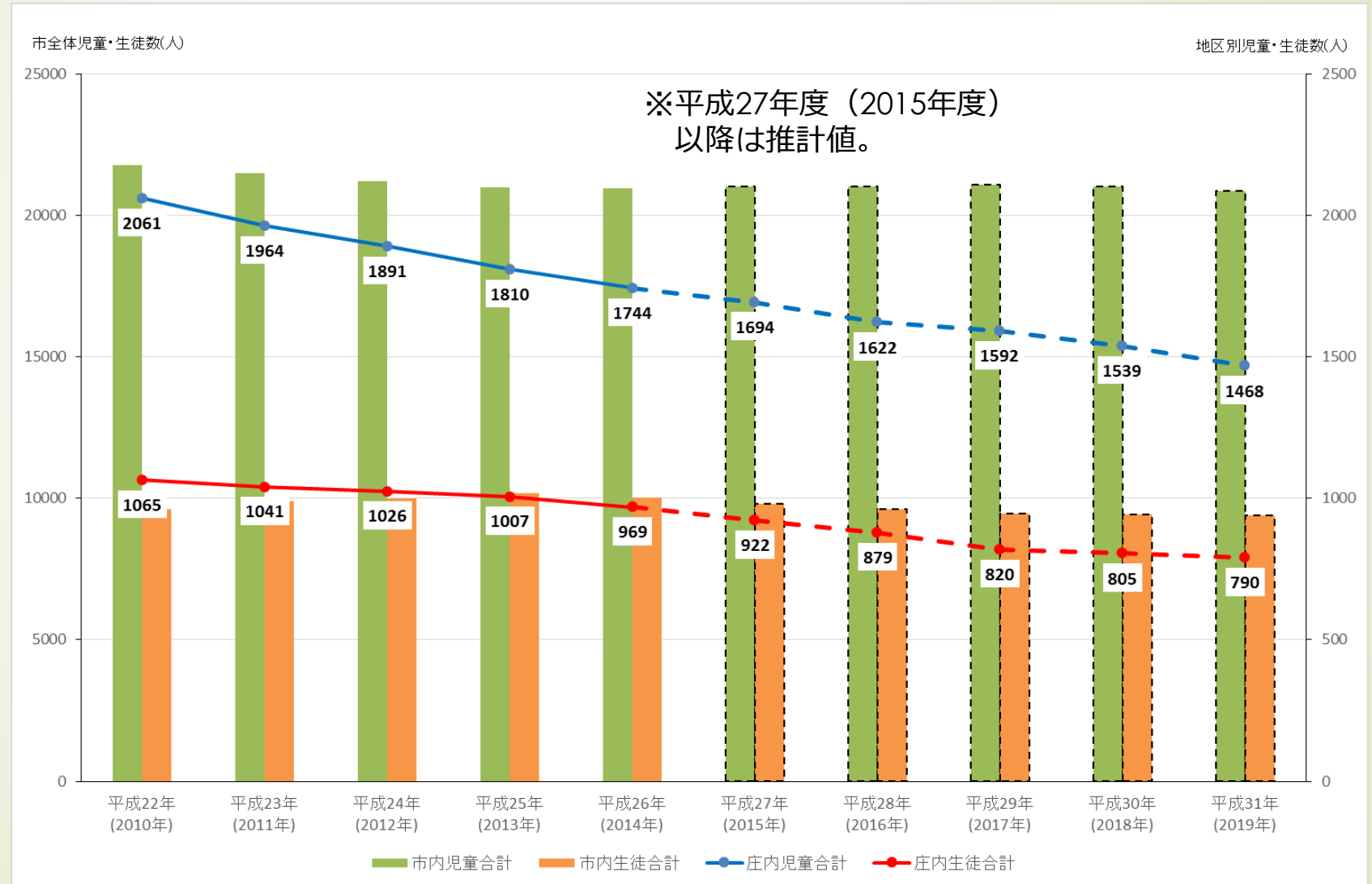
庄内児童（対象校）
 庄内小学校
 庄内南小学校
 庄内西小学校
 野田小学校
 島田小学校
 千成小学校

庄内生徒（対象校）
 第六中学校
 第七中学校
 第十中学校

各年5月1日現在の
 在籍児童・生徒数を
 合計したもの。



庄内地域における児童・生徒数の将来推計



庄内地域の小学校の規模

	平成25年度 (2013年度)	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	平成31年度 (2019年度)	平成26年度 (2014年度)
庄内小学校	246人	242人	229人	209人	207人	185人	188人	238人
	10学級	9学級	8学級	7学級	8学級	7学級	8学級	9学級
庄内南小学校	274人	269人	248人	246人	235人	220人	204人	267人
	11学級	10学級	10学級	9学級	7学級	7学級	7学級	※11学級
庄内西小学校	250人	244人	252人	238人	222人	220人	217人	245人
	10学級	9学級	10学級	9学級	8学級	8学級	8学級	8学級
野田小学校	416人	377人	361人	341人	342人	336人	289人	384人
	※14学級	13学級	13学級	12学級	11学級	12学級	11学級	13学級
島田小学校	260人	257人	242人	224人	229人	227人	224人	263人
	※11学級	10学級	10学級	9学級	8学級	9学級	9学級	※11学級
千成小学校	364人	348人	346人	342人	331人	319人	310人	347人
	12学級	12学級	12学級	12学級	12学級	12学級	12学級	12学級

上段は児童数（小）、下段は通常学級数を表す。

平成25年度（2013年度）までは実数、平成26年度（2014年度）以降は推計値（平成26年度（2014年度）の実数は右表のとおり）。
網掛けはクラス替えができない学年が存在することを、また※は学級編制の弾力的運用により1学級増となっていることを示す。

庄内地域の中学校の規模

	平成25年度 (2013年度)	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	平成31年度 (2019年度)	平成26年度 (2014年度)
第六中学校	369人	348人	313人	303人	282人	288人	277人	352人
	11学級	10学級	9学級	9学級	9学級	9学級	9学級	※11学級
第七中学校	362人	356人	357人	337人	321人	310人	287人	356人
	10学級	10学級	9学級	9学級	9学級	9学級	9学級	※11学級
第十中学校	276人	263人	250人	234人	208人	195人	208人	261人
	9学級	9学級	8学級	7学級	6学級	6学級	7学級	9学級

上段は生徒数（中）、下段は通常学級数を表す。

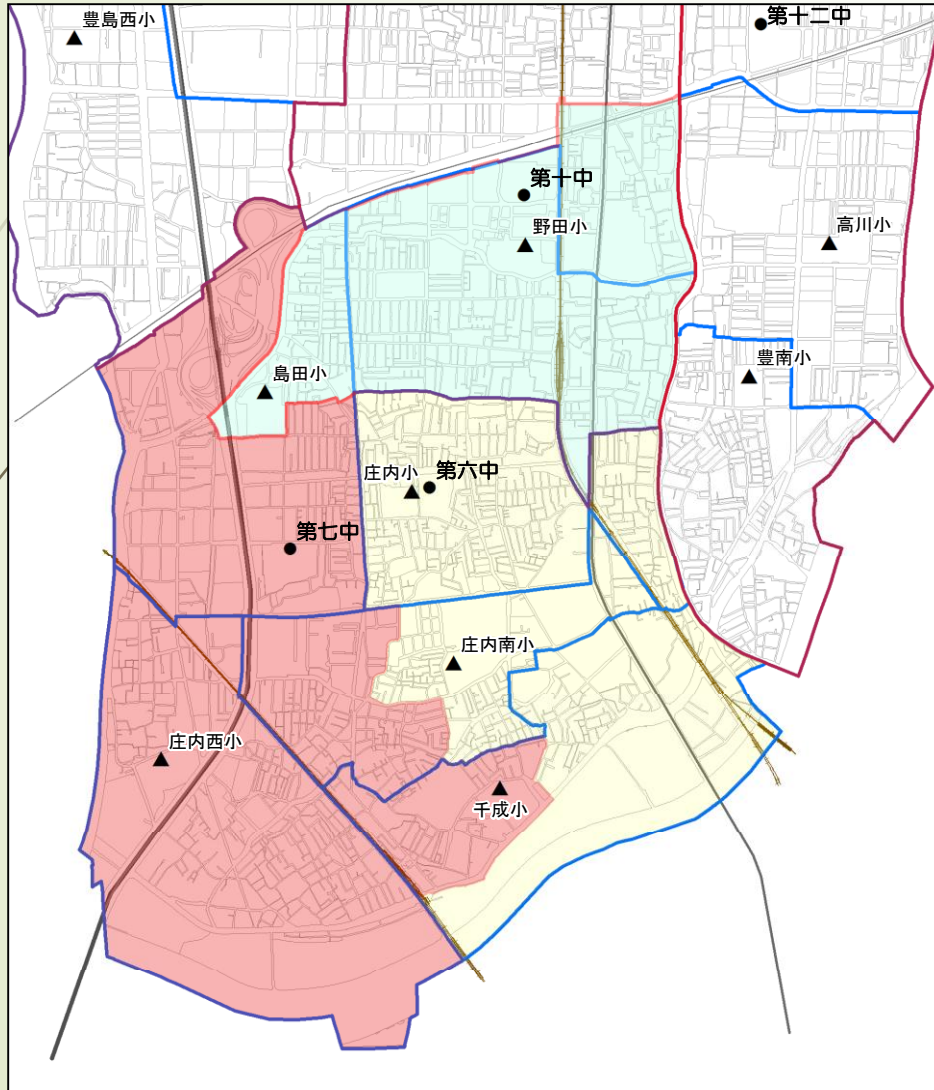
平成25年度（2013年度）までは実数、平成26年度（2014年度）以降は推計値（平成26年度（2014年度）の実数は右表のとおり）。

※は学級編制の弾力的運用により1学級増となっていることを示す。

小規模校のメリット、デメリット

	メリット	デメリット
児童・生徒数の少ない学校	<ul style="list-style-type: none">○相互理解が得やすい○活躍する機会が多い○教職員全体が一人ひとりに気を配ることができ、きめ細かく見ることができ○全教職員が学校全体の情報を共有しやすく、問題行動等も早く発見でき、迅速に適切に対応できる など	<ul style="list-style-type: none">○クラス替えができず、人間関係が固定化されてしまい、トラブルが生じた場合になかなか解決できない○児童・生徒が切磋琢磨する場が限られてくる○クラブ活動で、一人でも休むと活動が成立しない場合があるなど、精神面で負担がかかる（中学生）○指導者が少ないことから、クラブや委員会などの教育活動が縮小される○水泳指導など、他学年との合同実施では、安全面を優先し、下の学年に合わせた指導内容となる など

庄内地域の小・中学校の通学区域



● 分割校の存在

1つの小学校から2つの中学校に分かれて進学する「分割校」が存在し、小中一貫教育を推進するにあたっての課題となっている。

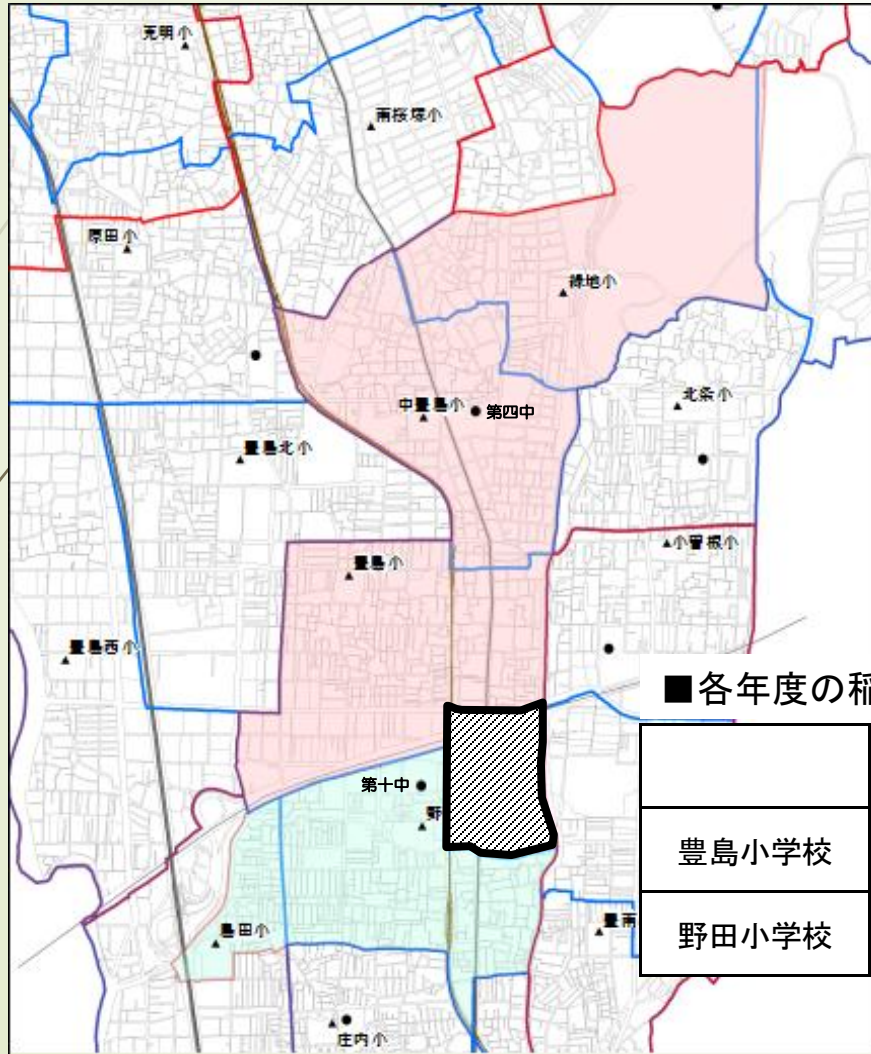
分割校	進学先中学校	入学者数(人)	割合(%)	割合の幅(%) (H23~H25)
庄内南小学校	第六中学校	20	38.5	38.5~41.7
	第七中学校	32	61.5	58.3~61.5

分割校	進学先中学校	入学者数(人)	割合(%)	割合の幅(%) (H23~H25)
千成小学校	第六中学校	51	77.3	77.3~84.5
	第七中学校	15	22.7	15.5~22.7

分割校	進学先中学校	入学者数(人)	割合(%)	割合の幅(%) (H23~H25)
島田小学校	第七中学校	25	62.5	62.5~67.9
	第十中学校	15	37.5	32.1~37.5

※平成25年度(2013年度)の入学者数及び割合を表す。

庄内地域の小・中学校の通学区域



● 調整区域の存在

稲津町 1～3 丁目については、豊島小学校、第十中学校が指定校であるが、入学（転入学）当初に希望する者は野田小学校に、また豊島小学校を卒業した者は第四中学校に、それぞれ指定校の変更が認められている。

調整区域の存在は、子どもたち同士や地域とのつながり、また全市的な通学区域の整合性の観点から課題となっている。

■ 各年度の稲津町からの入学人数と割合について

	平成21年度 (2009年度)		平成22年度 (2010年度)		平成23年度 (2011年度)		平成24年度 (2012年度)		平成25年度 (2013年度)	
豊島小学校	51人	50.5%	40人	43.0%	39人	45.3%	37人	39.4%	34人	34.7%
野田小学校	50人	49.5%	53人	57.0%	47人	54.7%	57人	60.6%	64人	65.3%

※人数は、各年度の全児童(1年生～6年生)在籍者数を表す。

庄内地域の小・中学校の教育課題

■ 小規模による課題

- 学年1学級では、トラブルが生じた場合などクラス替えができず、人間関係が固定化して課題の解決が難しい。
- 教職員が少ないことにより、学習面・生徒指導面で教職員の負担が大きい
- 児童・生徒の活動が制限されたり、活気が失われたりする。（クラブ活動、行事等）

■ 分割進学による課題

- 複数の中学校に分かれて進学することから、小学校から中学校への一貫した教育が難しい
- 少人数で中学校に分かれて進学する子どもは、中学校に馴染みにくい

■ 学力・生徒指導等の課題

より充実した教育環境をめざして

■ 学校規模と通学区域に関する課題の解消に向けた基本方針

南部地区の課題解消に向けて、**平成26年度（2014年度）**から検討に着手

<検討事項>

- さまざまな施設・機能等と学校の連携のあり方（魅力ある学校づくり）
 - 0歳からの子育て・子育て、教育を意識した乳幼児施設との連携
 - “児童館”的機能（居場所）、“放課後学び舎”的機能（学習支援）との連携
 - 地域の特色を活かした学びを目的とした施設・機能等との連携 など
- ⇒（仮称）南部コラボセンターの動きにあわせて検討
- 小中一貫教育のあり方、分割校や調整区域の解消について
- 児童・生徒数の推移を見極めながら、小・中学校の配置のあり方を検討

検討の進め方

<平成26年度（2014年度）>

- 「魅力ある学校」を一緒に考えましょう！
 - P T A、地域団体等との意見交換
 - 多様な参加者によるワークショップ形式での検討
 - 市ホームページ等での進捗状況報告及び意見募集
 - 学習会等への講師派遣

学校と地域が
協力し合える
仕組みって？



放課後や土日も
遊んだり、勉強し
たりできる場所が
欲しいな！

P T A 等への説明及び意見交換

第六中学校	6月25日（水）	庄内小学校	7月11日（金）	野田小学校	7月1日（火）
第七中学校	6月26日（木）	庄内南小学校	7月11日（金）	島田小学校	7月10日（木）
第十中学校	7月11日（金）	庄内西小学校	6月19日（木）	千成小学校	7月1日（火）

<いただいた意見、質問の主な項目>

- ▶ 小規模課題について（メリット、デメリット等）
- ▶ 分割校について
- ▶ 調整区域について
- ▶ まちづくりについて（（仮称）南部コラボセンター構想を含む）
- ▶ 学校の配置のあり方について（統廃合等）
- ▶ 小中一貫、小小連携について
- ▶ 今後の検討の進め方について
- ▶ その他

検討の進め方

＜平成27年度（2015年度）＞



➡ 「魅力ある学校」の具現化に向けた検討

➡ 庄内地域の課題を解消し、「魅力ある学校」づくりを進めるための

具体的方策の方向性を決定します。

➡ 保護者、地域住民の皆様との意見交換会を随時開催

➡ 市ホームページ等での報告及び意見募集、学習会等の継続



保護者や地域住民の皆様とともに
庄内地域の子どもたちの
より充実した教育環境をめざします。



<問い合わせ先>

豊中市教育委員会事務局 教育総務室 企画チーム

〒561-8501 豊中市中桜塚3丁目1番1号（豊中市役所第一庁舎6階）

電話 06-6858-2705 FAX 06-6845-6778

電子メール kikakuseisaku@city.toyonaka.osaka.jp